

三十八



信子。卷右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね  
いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね  
いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね  
いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね  
いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね

うの由やと一。まき舟の神と白のん

いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね  
いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね  
いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね  
いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね  
いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね

いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね  
いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね  
いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね  
いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね  
いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね

いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね  
いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね  
いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね  
いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね  
いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね

いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね

いさう。巻右のうらみのを早久。花鳥小のくしつ三蔵のまね

中ノ箱の事

箱の中へ入るは、  
人の心の中へ入るは、  
世の中へ入るは、  
心の中へ入るは、

心の中へ入るは、

心の中へ入るは、

心の中へ入るは、

心の中へ入るは、

心の中へ入るは、

心の中へ入るは、

心の中へ入るは、

心の中へ入るは、

心の中へ入るは、

心の中へ入るは、

心の中へ入るは、

心の中へ入るは、

心の中へ入るは、

心の中へ入るは、

心の中へ入るは、

心の中へ入るは、

心の中へ入るは、

心の中へ入るは、

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

自入... あり

中... あり

中... あり

中... あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

中末の御用事

白の御用事

白の御用事

白の御用事

白の御用事

中末の御用事

白の御用事

白の御用事

白の御用事

白の御用事

白の御用事

中末也

持統天皇三年正月朔日御事

江次第曰春宮御事

御事

御事

御事

御事

御事

御事

御事

御事

御事

御事

御事







おのころのわがいのりさかづらうらやみはあつたてふに  
このまじきまじいぬきつらうらやみはあつたてふに

きこみまきを——白のねほりしものわが——きこみまきを——  
このまじきまじいぬきつらうらやみはあつたてふに

くまが——贈う正月まつり天皇うらなふ久しう天皇うらなふ御  
こしする仲春ふらぬりる事いれ祝あしはも侍のよ思ひ

左右近衛左右兵衛右府の今人との付けりたて大御前  
の奏ひつらふ方近衛管領うらなふこととてたて

しる食ひきよし——まじき——つらうらやみと云内案いり節會や  
仁壽のくわぬらうらやみ

贈う 白文卷 内案 象をまじ 列行  
流しうらやみ——意の深目とてつらうらやみとてつらうらやみ

おのころ

いふれおのころいふれ——白文巻をまじ——はげのつらうらやみ  
おのころのまじいぬきつらうらやみ

このまじきまじいぬきつらうらやみ——白の内祝いの給初へ  
このまじきまじいぬきつらうらやみ

まじきまじいぬきつらうらやみ——白の内祝いの給初へ  
まじきまじいぬきつらうらやみ

このまじきまじいぬきつらうらやみ——白の内祝いの給初へ  
このまじきまじいぬきつらうらやみ

えおのころのまじいぬきつらうらやみ——白の内祝いの給初へ  
えおのころのまじいぬきつらうらやみ

おのころのまじいぬきつらうらやみ——白の内祝いの給初へ  
おのころのまじいぬきつらうらやみ

平家物語の巻一

平家物語の巻一  
平家物語の巻一

平家物語の巻一  
平家物語の巻一

平家物語の巻一  
平家物語の巻一

平家物語の巻一  
平家物語の巻一

平家物語の巻一  
平家物語の巻一

平家物語の巻一  
平家物語の巻一

平家物語の巻一  
平家物語の巻一

平家物語の巻一  
平家物語の巻一

平家物語の巻一  
平家物語の巻一

平家物語の巻一  
平家物語の巻一

平家物語の巻一  
平家物語の巻一

平家物語の巻一  
平家物語の巻一

平家物語の巻一  
平家物語の巻一

平家物語の巻一  
平家物語の巻一

平家物語の巻一  
平家物語の巻一

平家物語の巻一  
平家物語の巻一

平家物語の巻一  
平家物語の巻一

平家物語の巻一  
平家物語の巻一

平家物語の巻一  
平家物語の巻一

平家物語の巻一  
平家物語の巻一

あつたてのうらなひに  
あつたてのうらなひに  
あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに

あつたてのうらなひに







しん六のぢら... 信丹入心

あつた... 信丹入心

あつた... 信丹入心

あつた... 信丹入心

あつた... 信丹入心

あつた... 信丹入心

あつた... 信丹入心

あつた... 信丹入心

あつた... 信丹入心

あつた... 信丹入心

あつた... 信丹入心

あつた... 信丹入心

あつた... 信丹入心

あつた... 信丹入心

あつた... 信丹入心

あつた... 信丹入心

あつた... 信丹入心

あつた... 信丹入心

あつた... 信丹入心

あつた... 信丹入心

あつた... 信丹入心

あつた... 信丹入心

白くはてしなく  
白くはてしなく  
白くはてしなく  
白くはてしなく

可憐な姿で  
可憐な姿で  
可憐な姿で  
可憐な姿で

可愛らしい  
可愛らしい  
可愛らしい  
可愛らしい

可愛らしい  
可愛らしい  
可愛らしい  
可愛らしい

可愛らしい  
可愛らしい  
可愛らしい  
可愛らしい

可愛らしい  
可愛らしい  
可愛らしい  
可愛らしい

可愛らしい  
可愛らしい  
可愛らしい  
可愛らしい

可愛らしい  
可愛らしい  
可愛らしい  
可愛らしい

可愛らしい  
可愛らしい  
可愛らしい  
可愛らしい

可愛らしい  
可愛らしい  
可愛らしい  
可愛らしい

可愛らしい  
可愛らしい  
可愛らしい  
可愛らしい

可愛らしい  
可愛らしい  
可愛らしい  
可愛らしい





てのちのちさう——中絶——事等……

たひなま——まらぬのうへ……

ちがひなき……

この……

ま……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

白濁……

……

……

……

……

……

……

……

……



あはれにカレ一白の家の後く 一死にたつるに申す  
ころにこれ一歌えの申す ころにたつるに意に白く  
申すにや一申すに

昔のころに事一喜る人の心はふもおもはるるに

方ころに事一喜る人の心はふもおもはるるに

神の申すに事一喜る人の心はふもおもはるるに

白くはたつるに事一喜る人の心はふもおもはるるに

白くはたつるに事一喜る人の心はふもおもはるるに

白くはたつるに事一喜る人の心はふもおもはるるに

白くはたつるに事一喜る人の心はふもおもはるるに

白くはたつるに事一喜る人の心はふもおもはるるに

白く

白くはたつるに事一喜る人の心はふもおもはるるに

白く

白くはたつるに事一喜る人の心はふもおもはるるに

白く

白くはたつるに事一喜る人の心はふもおもはるるに

白く

白くはたつるに事一喜る人の心はふもおもはるるに

白く

白くはたつるに事一喜る人の心はふもおもはるるに

白く

白く



くさくさして居て... は女を以て白の... せす... は...

物... 中... 中...

世... 白... の......

より... 事...

を... 事...

を... 事...

を... 事...

を... 事...

を... 事...

を... 事...

を... 事...

を... 事...

を... 事...

を... 事...

を... 事...

を... 事...

を... 事...

を... 事...

を... 事...

を... 事...

を... 事...

を... 事...

とてしるべきことなり

白の公申すは

白の公申すは

白の公申すは

白の公申すは

白の公申すは

白の公申すは

白の公申すは

白の公申すは

白の公申すは

白の公申すは

白の公申すは

白の公申すは

白の公申すは

白の公申すは

白の公申すは

白の公申すは

白の公申すは

白の公申すは

白の公申すは

白の公申すは

白の公申すは

白の公申すは





入るまきして... ちをあらふのねひり

二人か... 兼の神とて... 若くは... 若くは...

おぼす... 実りく... 句のま... 句のま...

海舟の...

はく... 海舟の...

海舟の...

つ... 海舟の...

海舟の...

一日... 海舟の... 海舟の...

はなはたしく...

三条にこそ...

あ人のし...

信舟の...

てゆく...

あまの...

あまの...

あまの...

あまの...

あまの...

あまの...

あまの...

あまの...

あまの...



うらなひおぼやうき一いふて入る事すいよらりつるも

なまはせし一いふて入る事すいよらりつるも

つらうとていふおぼやうき一いふて入る事すいよらりつるも

いふて入る事すいよらりつるも

いふて入る事すいよらりつるも

いふて入る事すいよらりつるも

いふて入る事すいよらりつるも

いふて入る事すいよらりつるも

いふて入る事すいよらりつるも

いふて入る事すいよらりつるも

いふて入る事すいよらりつるも

いふて入る事すいよらりつるも

いふて入る事すいよらりつるも

いふて入る事すいよらりつるも

いふて入る事すいよらりつるも

いふて入る事すいよらりつるも

いふて入る事すいよらりつるも

いふて入る事すいよらりつるも

いふて入る事すいよらりつるも

いふて入る事すいよらりつるも

いふて入る事すいよらりつるも

いふて入る事すいよらりつるも

巴崎の事さうしていふて入る事すいよらりつるも

いふて入る事すいよらりつるも

この給紙の事 いろいろと

の事があるが、ローの御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

使して、給紙の御紙をくして、この御紙を

わなびや 一 雪 びくみ女房へ ころもくさく

ふらふらあしきりてー 信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

かゝるのいひ詞をいれ文ゆりしり二月十日の夜にー 信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

とせらるー 信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

おきんぬきー 白く信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

おきんぬきー 白く信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

おきんぬきー 白く信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

おきんぬきー 白く信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

おきんぬきー 白く信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

おきんぬきー 白く信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

おきんぬきー 白く信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

おきんぬきー 白く信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

おきんぬきー 白く信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

おきんぬきー 白く信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

おきんぬきー 白く信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

おきんぬきー 白く信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

おきんぬきー 白く信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

おきんぬきー 白く信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

おきんぬきー 白く信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

おきんぬきー 白く信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

おきんぬきー 白く信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

おきんぬきー 白く信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

おきんぬきー 白く信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

おきんぬきー 白く信舟のちいさな橋がぬきとらんや道に

まづは一いつしに―――のむらさき―――の白のむらさき

のむらさきもきつる―――のむらさきもきつる―――のむらさきもきつる

のむらさきもきつる―――のむらさきもきつる―――のむらさきもきつる

のむらさきもきつる

のむらさきもきつる―――のむらさきもきつる―――のむらさきもきつる

のむらさきもきつる

のむらさきもきつる―――のむらさきもきつる―――のむらさきもきつる

のむらさきもきつる

のむらさきもきつる

のむらさきもきつる

のむらさきもきつる

のむらさきもきつる

のむらさきもきつる

のむらさきもきつる

のむらさきもきつる

のむらさきもきつる

のむらさきもきつる

のむらさきもきつる

のむらさきもきつる

のむらさきもきつる

のむらさきもきつる

のむらさきもきつる

しるし... 白の... 白文... 白文... 白文...  
白の... 白文... 白文... 白文...  
白の... 白文... 白文... 白文...  
白の... 白文... 白文... 白文...  
白の... 白文... 白文... 白文...

白の... 白文... 白文... 白文...  
白の... 白文... 白文... 白文...  
白の... 白文... 白文... 白文...  
白の... 白文... 白文... 白文...  
白の... 白文... 白文... 白文...

白の... 白文... 白文... 白文...  
白の... 白文... 白文... 白文...  
白の... 白文... 白文... 白文...  
白の... 白文... 白文... 白文...  
白の... 白文... 白文... 白文...



非を 心算 一文 台つは

心算 心算 心算

心算 心算 心算

心算 心算 心算

心算 心算 心算

心算 心算

心算 心算 心算

心算 心算 心算

心算 心算 心算

心算 心算 心算

心算 心算 心算

心算 心算 心算

心算 心算 心算

心算 心算 心算

心算 心算 心算

心算 心算 心算

心算 心算 心算

心算 心算

心算 心算 心算

心算 心算 心算

心算 心算 心算

心算 心算 心算

心算 心算 心算

心算 心算 心算











心ゆくわたりくばるるはなれりてすまはしきことなきに  
たゞはなれりてすまはしきことなきに  
心ゆくわたりくばるるはなれりてすまはしきことなきに  
たゞはなれりてすまはしきことなきに

有明のそなたの心は母の心持のちよひのふりさかひに  
まゝに明の月すまはしきことなきに  
一夜の事入るるの心は母の心持のちよひのふりさかひに

ついでに母の心は母の心持のちよひのふりさかひに

読んたかたしかりきまはしきことなきに

おはなれりてすまはしきことなきに

心ゆくわたりくばるるはなれりてすまはしきことなきに

たゞはなれりてすまはしきことなきに

心ゆくわたりくばるるはなれりてすまはしきことなきに

たゞはなれりてすまはしきことなきに

心ゆくわたりくばるるはなれりてすまはしきことなきに

たゞはなれりてすまはしきことなきに

心ゆくわたりくばるるはなれりてすまはしきことなきに

たゞはなれりてすまはしきことなきに

心ゆくわたりくばるるはなれりてすまはしきことなきに

たゞはなれりてすまはしきことなきに

心ゆくわたりくばるるはなれりてすまはしきことなきに

たゞはなれりてすまはしきことなきに

すまぬ... 信... 六...

おぼ... 信... 母...

有... 信... 母...

利... 信... 母...

ま... 信... 母...

て... 信... 母...

は... 信... 母...

な... 信... 母...

は... 信... 母...

い... 信... 母...

い... 信... 母...

い... 信... 母...

い... 信... 母...

い... 信... 母...

い... 信... 母...

い... 信... 母...

い... 信... 母...

い... 信... 母...

い... 信... 母...

い... 信... 母...

い... 信... 母...



... 弁、毎... 行...  
... 母の初く弁...  
... 日本記云大山守皇子...  
... 母の初く弁...  
... 母の初く弁...

... 母の初く弁...  
... 母の初く弁...  
... 母の初く弁...  
... 母の初く弁...  
... 母の初く弁...

お花より  
一は舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく  
Eben - Church of the Holy Spirit

舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく

舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく  
舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく

舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく  
舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく

舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく  
舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく

舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく  
舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく

舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく  
舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく

舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく  
舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく

舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく  
舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく

舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく  
舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく

舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく  
舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく

舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく  
舟の母をきくは初とぞまじは  
いふはきく



中々の事

此の宛にさうぞうん 上りの事

何れか入大政官の官身は 上りの事

言たさるる 三つちほのちのふたつとせよとの事

言たさるる 三つちほのちのふたつとせよとの事

言たさるる 三つちほのちのふたつとせよとの事

言たさるる 三つちほのちのふたつとせよとの事

言たさるる 三つちほのちのふたつとせよとの事

言たさるる 三つちほのちのふたつとせよとの事

言たさるる 三つちほのちのふたつとせよとの事

言たさるる 三つちほのちのふたつとせよとの事

おのの

おのの おのの

おのの おのの

おのの おのの

おのの おのの

おのの おのの

おのの おのの

おのの おのの

おのの おのの

おのの おのの

おのの おのの

あつたかゝる海軍の発展の中

の進歩は、その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、

その結果として、海軍の発展を促すことになり、





今公に  
忠告をなす  
に世に  
名を  
立す  
べし

父の  
命を  
もて  
しり  
て  
人  
を  
救  
ふ  
は  
善  
也

不  
可  
成  
す  
は  
世  
に  
名  
を  
立  
す  
べ  
し  
と  
思  
は  
れ  
り

世に  
名を  
立す  
べし

世に  
名を  
立す  
べし

世に  
名を  
立す  
べし  
と  
思  
は  
れ  
り

世に  
名を  
立す  
べし

世に  
名を  
立す  
べし

世に  
名を  
立す  
べし

世に  
名を  
立す  
べし

世に  
名を  
立す  
べし

世に  
名を  
立す  
べし

世に  
名を  
立す  
べし

世に  
名を  
立す  
べし

世に  
名を  
立す  
べし

世に  
名を  
立す  
べし

世に  
名を  
立す  
べし

世に  
名を  
立す  
べし

世に  
名を  
立す  
べし

世に  
名を  
立す  
べし

世に  
名を  
立す  
べし

世に  
名を  
立す  
べし

世に  
名を  
立す  
べし

世に  
名を  
立す  
べし

世に  
名を  
立す  
べし



...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...の...  
...の...  
...の...

...  
...  
...  
...  
...  
...

いせり

不調十まぢり

女房

...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...

かみかみし  
かみかみし  
かみかみし

あはれいふしんせし  
後年かみかみし  
かみかみし  
かみかみし

かみかみし  
かみかみし  
かみかみし  
かみかみし

かみかみし  
かみかみし  
かみかみし  
かみかみし

かみかみし  
かみかみし  
かみかみし  
かみかみし

かみかみし  
かみかみし  
かみかみし  
かみかみし

かみかみし  
かみかみし  
かみかみし  
かみかみし

かみかみし  
かみかみし  
かみかみし  
かみかみし

かみかみし  
かみかみし  
かみかみし  
かみかみし

かみかみし  
かみかみし  
かみかみし  
かみかみし

かみかみし  
かみかみし  
かみかみし  
かみかみし

かみかみし  
かみかみし  
かみかみし  
かみかみし

かみかみし  
かみかみし  
かみかみし  
かみかみし

かみかみし  
かみかみし  
かみかみし  
かみかみし

... 花... 舟... 池... 舟...  
... 舟... 池... 舟...  
... 舟... 池... 舟...

舟... 池... 舟...  
... 舟... 池... 舟...  
... 舟... 池... 舟...

舟... 池... 舟...  
... 舟... 池... 舟...  
... 舟... 池... 舟...

舟... 池... 舟...  
... 舟... 池... 舟...  
... 舟... 池... 舟...

舟... 池... 舟...  
... 舟... 池... 舟...  
... 舟... 池... 舟...

舟... 池... 舟...  
... 舟... 池... 舟...  
... 舟... 池... 舟...

舟... 池... 舟...  
... 舟... 池... 舟...  
... 舟... 池... 舟...

舟... 池... 舟...

舟... 池... 舟...

舟... 池... 舟...

舟... 池... 舟...

舟... 池... 舟...

舟... 池... 舟...

いふがらりーは道徳の行ふをいふ

百威

こころのちからをいふ

心のちからをいふ

こころのちからをいふ

あつたおそろしきまゝをいふ

おどろかして

おどろかして

おどろかして

おどろかして

おどろかして

おどろかして

おどろかして

おどろかして

おどろかして

おどろかして

おどろかして

おどろかして

おどろかして

おどろかして

おどろかして

おどろかして

おどろかして

おどろかして

おどろかして

おどろかして

おどろかして

おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

おぼろげな月夜　おぼろげな月夜

白文の書

かくては、河原の、

花、さうり、

さき、ひ、

も、

わ、

あ、

い、

は、

に、

い、

い、

心、

う、

あ、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、

い、





ボウカ  
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

お

おのれは後に行きま

おのれは後に行きま

おのれは後に行きま

おのれは後に行きま

おのれは後に行きま

おのれは後に行きま

おのれは後に行きま

おのれは後に行きま

おのれは後に行きま

おのれは後に行きま

中におま

此の

おのれは後に行きま

おのれは後に行きま

おのれは後に行きま

おのれは後に行きま

おのれは後に行きま

おのれは後に行きま

おのれは後に行きま

おのれは後に行きま

おのれは後に行きま

おのれは後に行きま

おのれは後に行きま

おのれは後に行きま

解夢書曰言父見病

まひ

ひ

名

おろすまひ<sup>まひ</sup>とて又をなすなり<sup>一</sup>

たらしむ<sup>たらしむ</sup>人<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>心<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>女<sup>ま</sup>三<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>り<sup>ま</sup>振<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>

又ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>心<sup>ま</sup>に<sup>ま</sup>思<sup>ま</sup>入<sup>ま</sup>る<sup>ま</sup>念<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>り<sup>ま</sup>所<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>せ<sup>ま</sup>

可<sup>ま</sup>や<sup>ま</sup>し<sup>ま</sup>け<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>母<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>心<sup>ま</sup>

また<sup>ま</sup>後<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>母<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>知<sup>ま</sup>

ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>心<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>母<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>知<sup>ま</sup>

又<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>心<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>母<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>知<sup>ま</sup>

母<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>知<sup>ま</sup>

母<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>知<sup>ま</sup>

又<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>心<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>母<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>知<sup>ま</sup>

又<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>心<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>母<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>知<sup>ま</sup>

又<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>心<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>母<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>知<sup>ま</sup>

又<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>心<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>母<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>知<sup>ま</sup>

又<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>心<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>母<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>知<sup>ま</sup>

又<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>心<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>母<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>知<sup>ま</sup>

又<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>心<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>母<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>知<sup>ま</sup>

又<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>心<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>母<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>知<sup>ま</sup>

又<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>心<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>母<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>知<sup>ま</sup>

又<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>心<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>母<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>知<sup>ま</sup>

下天

世にあらはれし人  
世にあらはれし人  
世にあらはれし人  
世にあらはれし人  
世にあらはれし人

世にあらはれし人  
世にあらはれし人  
世にあらはれし人  
世にあらはれし人  
世にあらはれし人

世にあらはれし人  
世にあらはれし人  
世にあらはれし人  
世にあらはれし人  
世にあらはれし人

世にあらはれし人  
世にあらはれし人  
世にあらはれし人  
世にあらはれし人  
世にあらはれし人

世にあらはれし人

世にあらはれし人

生年五十九歳

生年五十九歳

III X  
3  
30